

2017年も脳卒中や心筋梗塞など一刻を争う脳や心臓の治療に邁進する一年でした。「最前線」の外来には連日300人近くの方がお出でになり、新規に診察した方も1年間で6000人以上でした。その25%は近隣の病院やクリニックからの紹介で、当院の専門性がお役に立てた方々です。「基地」となる入院ベッドもフル稼働で、手術は脳外科が約400件、心臓外科が約100件、そして循環器内科の心臓カテーテル治療が500件を超えています

医療法人会 桜ヶ丘 水戸ブレインハートセンター

院長

畑山 徹 氏



脳卒中・心筋梗塞と闘う

す。救急車とドクターヘリも1000回近く来着し、手術の3分の1は緊急での実施でした。まさに「闘い」と言え

る毎日でしたが、情熱あふれるスタッフ達の活躍で無事に乗り切ることができました。少子高齢化の「2025年

問題」は急に顕在化するものではなく、既に医療現場でも兆候が現れています。更に医療費削減の国策も絡んできま

る脳と心臓ドックを拡充するとともに、ひたちなかに市も関連施設を開設して受診の利便性を向上させます。病棟にも、空中回廊で直結するリハビリテーション棟を増築し、少ない移動時間で充実した回復訓練を実施できる体制を整えます。そして、それぞれの「生き方」へも配慮した治療を提案できるように、病院の理念であるHeart with Brain with Smile、すなわち「思いやりある知性と笑顔」に磨きをかけ、今年も脳卒中や心筋梗塞と闘い続けます。

すので、適切で効率的な診療体制への変革が中規模病院でも必要になると考えます。誰も伸びる寿命が有意義な余生となることを望みます。それを妨げる脳と心臓の疾患は、本人と家族、そして地域にも大きな損失を与えます。そこで早期発見と予防を

すので、適切で効率的な診療体制への変革が中規模病院でも必要になると考えます。誰も伸びる寿命が有意義な余生となることを望みます。それを妨げる脳と心臓の疾患は、本人と家族、そして地域にも大きな損失を与えます。そこで早期発見と予防を

ブレインピア坂戸西、桜ヶ丘クリニックなどを運営する医療法人桜ヶ丘会の基幹病院。2009年12月開設。脳と心臓の疾患を重点的に診療し、水戸圏域の救急医療二次病院にも指定